

韓国・朝鮮語学科 カリキュラムマップ(2025年度入学生)												
ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(韓国・朝鮮語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 韓国・朝鮮のことは、文化、文学、歴史、社会、風俗などに関する情報収集能力と知識を身につけている(知識) ③ 韓国・朝鮮語の運用能力を土台として専門性の高い学問を言語学、文学、歴史、社会文化、言語教育などの領域において探究することができる(韓国・朝鮮語による学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた韓国・朝鮮語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で韓国・朝鮮語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な韓国・朝鮮語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)											
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
韓国・朝鮮語A(文法)	演習	1	3	韓国・朝鮮語の文法の根幹である、名詞など体言につく助詞と動詞など用言の活用語尾による語形作りと語形分析がこの授業の中心となる。	韓国・朝鮮語の基礎的な文法を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語A(会話)	演習	1	2	韓国・朝鮮語の基本文型をふまえて簡単な会話演習をする。簡単な挨拶表現や自己紹介を始め、様々な場面での表現の習得を通じ、実際に韓国・朝鮮語で話してみる訓練をする。授業では韓国人が聞いてわかる正しい発音の仕方を身に付けるとともに、相手の発音を聞き分ける練習もする。授業では指定されたテキストを使う。	韓国・朝鮮語の基礎的な文法体系への理解を基に基礎的な会話力を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語A(発音)	演習	1	1	現代韓国・朝鮮語の音韻体系と音韻規則を理解させたうえで、正確な発音を身につけさせる。発音の難易度にしたがって、単語の発音練習から句および文の発音練習を行う。会話文、童詩、簡単な論説文に加えて、映像と音声を伴った物語文などを用いて、正確に発音できるように指導する。	現代韓国・朝鮮語の音韻体系と音韻規則を理解したうえで、正確な発音を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語B(文法)	演習	1	3	「韓国・朝鮮語A(文法)」の続編として、敬語形、命令・勧誘・禁止文、複文など、さらには用言の敬語形、連用形、連体形、接続形式などを学ぶ。	1.韓国・朝鮮語の初級文法を身に付ける。 2.初級文法の力をもとに作文・講読の基礎的能力を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語B(会話)	演習	1	2	「韓国・朝鮮語A(会話)」の学習内容を踏まえて、様々なテーマに対して初級レベルの簡単な韓国・朝鮮語で自分の考えを伝える練習を行う。グループディスカッション及び発表を基本にし、様々な話題について実際に韓国・朝鮮語で話してみる訓練をする。春期に比べて駆使できる語彙の数を増やし、辞書を引いて自分なりの文を作ってみたりする練習を導入する。	辞書を引きながら簡単な韓国・朝鮮語で自分の考えを聞き手に伝えることができる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語B(講読)	演習	1	1	特定のテーマについて書かれた比較的短い解説文を素材にして韓国・朝鮮語の基礎的読解力を養うとともに、韓国・朝鮮に関する様々な知識を習得することを目的とする。基礎文法を習得しつつある受講生のために文法的解説も可及的丁寧に行う。同時に丹念に辞書を引いて理解語彙を増やすことができるように指導する。	1.韓国・朝鮮語の語彙を増やし、基礎的読解能力を身に付ける。 2.韓国・朝鮮語文法に関する基礎的知識を身に付ける。 3.韓国・朝鮮文化に関する知識を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語C(文法)	演習	2	1	初級文法を基礎として、複文をつくるのに必要な種々の接続語尾、ムード(叙法)を表わす補助用言、否定の接続、否定の表現、依存名詞、さまざまな文末表現などに習熟させる。	1.韓国・朝鮮語の中級文法を身に付ける。 2.まとまった内容の文を作ることができる。 3.まとまった内容の文を読解することができる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語C(会話)	演習	2	1	「韓国・朝鮮語A・B(会話)」の授業で習得した基礎的な会話力をもとに、中級レベルの会話演習を行う。グループディスカッション及び発表を基本にし、様々な話題について実際に韓国・朝鮮語で話してみる訓練をする。会話の中で駆使できる韓国・朝鮮語の語彙数を増やし、辞書を引いて自分なりの文を作ってみたりする練習も導入する。授業では韓国人が聞いてわかる正しい発音の仕方を身に付けるとともに、相手の発音を聞き分ける練習もする。	グループディスカッション等の場面で韓国・朝鮮語で自分の考えを聞き手に伝えることができる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語C(講読)	演習	2	1	特定のテーマについて書かれた比較的短い解説文を素材に韓国・朝鮮語の基礎的読解力を養うとともに、韓国・朝鮮に関する様々な知識を学ぶ。既習の基礎的な文法事項を定着させるために、文法的解説も丁寧に行いつつ、丹念に辞書を引いて理解語彙を増やすことができるように指導する。	1.韓国・朝鮮語の語彙を増やし、初級～中級レベルの読解能力を身に付ける。 2.韓国・朝鮮語文法に関する知識を定着させる。 3.韓国・朝鮮文化に関する知識を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語C(作文)	演習	2	1	初級レベルから中級レベルへ進むために必要な韓国・朝鮮語の文法知識をふまえた上で、短文から長文作成の作文力を養うことを目標とする。文末形式、連体形、否定、可能と不可能、尊敬などの項目ごとに日韓対照言語学的な観点から韓国・朝鮮語作文における誤用分析を行うことによって、日本語と韓国・朝鮮語の語彙体系・文法体系の違いを理解する。	辞書を引きながら初級レベルの韓国・朝鮮語の短文から長文の作文作成が可能になる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語D(文法)	演習	2	1	既習の接続語尾に加えて作文・読解に必要な接続表現形式を学ぶ。引用文に関する学習をもとに引用文連体形と引用文末表現形式を理解させる。また、発話力・聴解力に必要な話し言葉特有の文末表現形式に習熟させる。	1.韓国・朝鮮語の中級文法を確実に身に付ける。 2.筋道の通った文を書き、話すことができる文法的知識を身に付ける。 3.高度な内容の文を読み、聴くことができる文法的知識を身に付ける。	○				◎	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（韓国・朝鮮語）の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている（国際性） ② 韓国・朝鮮のことば、文化、文学、歴史、社会、風俗などに関する情報収集能力と知識を身につけている（知識） ③ 韓国・朝鮮語の運用能力を土台として専門性の高い学問を言語学、文学、歴史、社会文化、言語教育などの領域において探究することができる（韓国・朝鮮語による学問探究） ④ 異文化理解を踏まえた韓国・朝鮮語によるコミュニケーションができる（コミュニケーション力） ⑤ あらゆる分野で韓国・朝鮮語を用いて活躍することができる（仕事で通用する語学力） ⑥ 国際的に通用する高度な韓国・朝鮮語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる（国内外での貢献性）											
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
韓国・朝鮮語D(会話)	演習	2	1	様々なテーマに対して中級レベルの韓国・朝鮮語で自分の考えを適切に表現する練習を行う。「韓国・朝鮮語C(会話)」に続き、グループディスカッション及び発表を基本にし、様々な話題について実際に韓国・朝鮮語で話してみる訓練をする。会話の中で駆使できる韓国・朝鮮語の語彙数を増やし、辞書を引いて自分なりの文を作ってみたりする練習も導入する。授業では韓国人が聞いてわかる正しい発音の仕方を身に付けるとともに、相手の発音を聞き分ける練習もする。	グループディスカッション等の場面で中級レベルの韓国・朝鮮語で自分の考えを聞き手に伝えることができる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語D(講読)	演習	2	1	特定のテーマについて書かれた解説文を素材に、韓国・朝鮮語の初級～中級レベルの読解力を養うとともに、韓国・朝鮮に関する様々な知識を学ぶ。既習の基礎的な文法事項を定着させるために、文法的解説も丁寧に行いつつ、短い時間で多くの文章を読みこなす能力を養うために、可能な限り多くのテキストを読みつつ、理解語彙のより一層の増加を図る。	1. 韓国・朝鮮語の語彙を増やし、初級～中級レベルの読解能力を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮語文法に関する知識を定着させる。 3. 韓国・朝鮮文化に関する知識を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語D(作文)	演習	2	1	初級レベルから中級レベルへ進むために必要な韓国・朝鮮語の文法知識をふまえた上で、短文から長文作成の作文力を養うことを目標とする。引用文、拡張構文などの項目ごとに日韓対照言語学的な観点から韓国・朝鮮語作文における誤用分析を行うことによって、日本語と韓国・朝鮮語の語彙体系・文法体系の違いを理解する。	辞書を引きながら初級レベルの韓国・朝鮮語の短文から長文の作文作成が可能になる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語E(会話)	演習	3	1	様々な場面に即した韓国・朝鮮語会話能力の養成する。様々な資料を題材にテーマに応じたディベートを行い、自らの意見を伝える会話能力の涵養をはかる。	グループディスカッションやプレゼンテーション等の場面で中級レベルの韓国・朝鮮語で自分の考えを聞き手に伝えることができる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語E(講読)	演習	3	1	特定のテーマについて書かれた解説文を素材に、韓国・朝鮮語の中級レベルの読解力を養うとともに、韓国・朝鮮に関する様々な知識を学ぶ。可能な限り多くのテキストを読んで、短い時間で多くの文章を読みこなす能力を養う。	1. 韓国・朝鮮語の語彙を増やし、中級レベルの読解能力を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮語文法に関する高度な知識を定着させる。 3. 韓国・朝鮮文化に関する知識を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語E(作文)	演習	3	1	中級レベルの文法知識を踏まえた上で、より高度な内容の文章力が身につくように訓練する。引用形式、授受表現、条件文、使役などの項目ごとに日韓対照言語学的な観点から韓国・朝鮮語作文における誤用分析を行うことによって、日本語と韓国・朝鮮語の語彙体系・文法体系の違いを理解する。	辞書を引きながら中級レベルの韓国・朝鮮語の短文から長文の作文作成が可能になる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語E(表現)	演習	3	1	韓国・朝鮮語らしい自然な文章表現ができる力をつける。韓国・朝鮮語の単語や文法、文型を習い文章を読む力、聞く力をつけるとともに慣用表現や敬語など、様々なシチュエーションでの表現を覚える。	1. 中級レベルの語彙力と文法知識にもとづいて、韓国・朝鮮語的発想による表現を駆使する能力を身に付ける。 2. 様々な場面を想定し、それにふさわしい表現ができる能力を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語F(会話)	演習	3	1	様々な場面に即した韓国・朝鮮語会話能力の養成する。様々な資料を題材にテーマに応じたディベートを行い、自らの意見を伝える会話能力の涵養をはかる。	グループディスカッションやプレゼンテーション等の場面で中級から上級レベルの韓国・朝鮮語で自分の考えを聞き手に伝えることができる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語F(講読)	演習	3	1	論説文、現代小説、随筆、童話など、様々な文体の韓国・朝鮮語文をテキストに中級～上級程度の読解力を養成するとともに、韓国・朝鮮に関する様々な知識を習得することを目的とする。日本語への訳出練習を繰り返すことで、総合的な読解能力とともに、韓国・朝鮮語文の自然な表現を身に付ける。	1. 韓国・朝鮮語の語彙を増やし、高い読解能力を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮語文法に関する高度な知識を定着させる。 3. 韓国・朝鮮文化に関する知識を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語F(作文)	演習	3	1	中級レベルの文法知識を踏まえた上で、より高度な内容の文章力が身につくように訓練する。否定、受け身、時を示す様々な表現、品詞の違いによる間違い、外来語などの項目ごとに日韓対照言語学的な観点から韓国・朝鮮語作文における誤用分析を行うことによって、日本語と韓国・朝鮮語の語彙体系・文法体系の違いを理解する。	中級から上級レベルの韓国・朝鮮語の作文作成が可能になる。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語F(表現)	演習	3	1	韓国・朝鮮語らしい自然な文章表現ができる力をつける。韓国・朝鮮語の単語や文法、文型を習い文章を読む力、聞く力をつけるとともに慣用表現や敬語など、様々なシチュエーションでの表現を覚える。	1. 中級レベルの語彙力と文法知識にもとづいて、韓国・朝鮮語的発想による表現を駆使する能力を身に付ける。 2. 様々な場面を想定し、それにふさわしい表現ができる能力を身に付ける。	○				◎	◎	
韓国・朝鮮語G(総合)	演習	4	1	韓国・朝鮮語の総合的な訓練を行う。上級レベルの語彙・文法・文型を自然に使いこなすとともに口頭発表としてプレゼンテーションを課すなど、自分の意見や考えを韓国・朝鮮語を用いて適切に相手に伝えられるようにする。	上級レベルの語彙・文法・文型を用いつつ自らの意見や考えを韓国・朝鮮語でプレゼンテーションできるようになる。	○				◎	◎	

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(韓国・朝鮮語)の学位を授与します。 ① 本学教育理念である「国際性」を身につけている(国際性) ② 韓国・朝鮮のことば、文化、文学、歴史、社会、風俗などに関する情報収集能力と知識を身につけている(知識) ③ 韓国・朝鮮語の運用能力を土台として専門性の高い学問を言語学、文学、歴史、社会文化、言語教育などの領域において探究することができる(韓国・朝鮮語による学問探究) ④ 異文化理解を踏まえた韓国・朝鮮語によるコミュニケーションができる(コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野で韓国・朝鮮語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度な韓国・朝鮮語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる(国内外での貢献性)					
	科 目 名	授業形態	配当 年次	単位	授業の主題	授業の到達目標 ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要
						① ② ③ ④ ⑤ ⑥
韓国・朝鮮語H(総合)	演習	4	1	韓国・朝鮮語の総合的な訓練を行う。上級レベルの語彙・文法・文型を自然に使いこなすとともに口頭発表としてプレゼンテーションを課す。同時にディスカッションを行い、他人の意見を聞きつつ、自分の意見や考えを韓国・朝鮮語を用いて適切に相手に伝えられるようにする。	上級レベルの語彙・文法・文型を用いつつ自らの意見や考えを韓国・朝鮮語でプレゼンテーションできるようになる。あわせて、ディスカッションを通じて相手とのやり取りを適切に行うことができるようになる。	○ ◎ ◎
実践韓国・朝鮮語A	演習	2・3・4	1	初級レベルの韓国・朝鮮語学習を終えた受講生を対象に、初級文法を基礎として「読み・書き・聞き・話し」の4技能がバランスよく確実に身につくように指導する。映像や音声教材も利用しながら、中級レベルの語学能力検定試験に対応できる能力を身に付けさせる。	1.初級レベルの語彙力、文法的知識を定着させる。 2.中級レベルの語彙力、文法的知識を身に付け、それを活用できる韓国・朝鮮語能力を身に付ける。	○ ◎ ◎
実践韓国・朝鮮語B	演習	2・3・4	1	中級レベルにさしかかった韓国・朝鮮語学習者を対象に、これまで学んだ文法を基礎として「読み・書き・聞き・話し」の4技能がバランスよく確実に身につくように指導する。グループでテーマに沿って調べたものを発表したり文章をまとめる作業を通して、中級レベルの語学能力検定試験に対応できる能力を身に付けさせる。	1.初級レベルの語彙力、文法的知識を定着させる。 2.中級レベルの語彙力、文法的知識を身に付け、それを活用できる韓国・朝鮮語能力を身に付ける。	○ ◎ ◎
映像で学ぶ韓国・朝鮮語	演習	2・3・4	1	映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料を教材として書き取りなどの訓練を行い、映像の中で用いられる韓国・朝鮮語の言語運用能力を高める。あわせて、その映像の背景を理解することで、韓国社会や歴史についての知識なども習得させる。	1.様々な映像資料で用いられる韓国・朝鮮語を理解する能力を身に付ける。 2.様々な映像資料で表現される韓国・朝鮮社会の諸相を理解する能力を身に付ける。	○ ◎ ◎
韓国・朝鮮語古典講読	演習	3・4	1	韓国・朝鮮の古典をテキストとしてその読解能力を養成する。韓国・朝鮮の古典資料をテキストに講読を行い、ハングル普及以前の漢字・漢文による表記法、ハングル創製期から開化期にいたる韓国・朝鮮語の表記法を学ぶとともに、さらにそのテキストが書かれた時代の文化的背景を学ぶ。	1.ハングル創製以前の漢字・漢文による韓国・朝鮮語の表記法、ハングル創製の背景を知る。 2.辞書や工具書を利用して、創製初期のハングルで書かれた古典資料や19世紀のハングル資料を読めるようになる。	○ ◎ ◎
通訳翻訳韓国・朝鮮語A	演習	3・4	1	韓国・朝鮮語と日本語を対象とした語彙力の養成と、翻訳・通訳の実践的訓練である。さまざまなテーマを巡る実際の場面での翻訳・通訳ができるように高度な語学力の養成と専門的なスキルを学ぶ。	1.経済・社会・情報・文化面等、各分野の語彙力を身に付ける。 2.文章口訳とノート・テーキングのスキルを身に付ける。 3.韓国・朝鮮語と日本語を対象に中級レベルの翻訳・通訳が可能になる。	○ ◎ ◎
通訳翻訳韓国・朝鮮語B	演習	3・4	1	韓国・朝鮮語と日本語を対象とした語彙力の養成と、翻訳・通訳の実践的訓練である。「通訳翻訳韓国・朝鮮語A」に引き続き、さまざまなテーマを巡る実際の場面での翻訳・通訳ができるように高度な語学力の養成と専門的なスキルを学ぶ。	1.経済・社会・情報・文化面等、各分野の語彙力を身に付ける。 2.文章口訳とノート・テーキングのスキルを身に付ける。 3.韓国・朝鮮語と日本語を対象に中級から上級レベルの翻訳・通訳が可能になる。	○ ◎ ◎
応用韓国・朝鮮語A	演習	3・4	1	韓国で発行されている新聞・雑誌やニュースなどの資料を素材として、韓国・朝鮮社会の動きや人々の暮らしを学ぶ。またその内容について韓国・朝鮮語で発表したり議論する練習などを行う。	1.韓国で発行された新聞・雑誌を読んで、その内容を理解できるようになる。 2.韓国のニュースなどの映像資料を視聴して、その内容を理解できるようになる。 3.韓国社会の動きや人々の暮らしについて学ぶ。	○ ○ ◎ ◎
応用韓国・朝鮮語B	演習	3・4	1	韓国で発行されている新聞・雑誌やニュースなどの資料を素材として、韓国・朝鮮社会の動きや人々の暮らしを学ぶ。またその内容について韓国・朝鮮語で発表したり議論する練習などを行う。	1.韓国で発行された新聞・雑誌を読んで、その内容を理解できるようになる。 2.韓国のニュースなどの映像資料を視聴して、その内容を理解できるようになる。 3.韓国社会の動きや人々の暮らしについて学ぶ。	○ ○ ◎ ◎
伝道韓国・朝鮮語1	演習	3・4	1	韓国・朝鮮語社会への天理教伝道に必要な十分な語学力を養うことを目標とする。そのために、韓国・朝鮮語圏の社会構造をはじめ、宗教・信仰、風習、思想などについて書かれた文章をテキストにして講読を行う。これによって、伝道する上で生起することが予想される諸問題について考える。	1.韓国・朝鮮における天理教伝道に必要な言語運用能力を身に付ける。 2.韓国・朝鮮における天理教伝道を前提として、韓国・朝鮮の社会構造、宗教、信仰、風習、思想などについて知る。	○ ○ ◎ ◎ ◎
伝道韓国・朝鮮語2	演習	3・4	1	韓国・朝鮮語社会への天理教伝道に必要な十分な語学力を養うことを目標とする。天理教用語に関して、韓国・朝鮮語訳における不翻訳語は「ひのきしん」と「たんのう」のみであるが、これは数的に英語などの他の言語の翻訳に比べると極端に少ない。他の言語において不翻訳とされた用語をも対象にして、それらと比較しながら正確な教義伝達に必要なことから学ぶことにする。	1.韓国・朝鮮における天理教伝道に必要な言語運用能力を身に付ける。 2.韓国・朝鮮における天理教伝道を前提として、韓国・朝鮮の社会構造、宗教、信仰、風習、思想などについて知る。	○ ○ ◎ ◎ ◎
韓国・朝鮮語学概論1	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮語について、言語学の立場から講義することによって、基礎語学の運用に必要な知識と理解力を修得させる。	韓国・朝鮮語を言語学的に観察・分析することができる。	○ ◎ ○
韓国・朝鮮語学概論2	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮語について、言語学の立場から講義することによって、基礎語学の運用に必要なより深い知識と理解力を修得させる。	韓国・朝鮮語を言語学的により深く観察・分析することができる。	○ ◎ ○

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（韓国・朝鮮語）の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている（国際性） ② 韓国・朝鮮のことば、文化、文学、歴史、社会、風俗などに関する情報収集能力と知識を身につけている（知識） ③ 韓国・朝鮮語の運用能力を土台として専門性の高い学問を言語学、文学、歴史、社会文化、言語教育などの領域において探究することができる（韓国・朝鮮語による学問探究） ④ 異文化理解を踏まえた韓国・朝鮮語によるコミュニケーションができる（コミュニケーション力） ⑤ あらゆる分野で韓国・朝鮮語を用いて活躍することができる（仕事で通用する語学力） ⑥ 国際的に通用する高度な韓国・朝鮮語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる（国内外での貢献性）											
	科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
韓国・朝鮮文学概論1	講義	2・3・4	2	文学史的な側面から各時代のジャンルの特色とその代表的作品を紹介し、その作品の背景や特徴などについて考える。時代は古代から近世までとし、神話、説話、古典詩歌、古典小説、古典芸能などを扱う。	1. 韓国・朝鮮文学（古典）の流れや特徴、代表的な作品に対する知識を得る。 2. 韓国・朝鮮文学や芸能を通じて、その時代の人々の思考などを考え、人間への広い視野を得る。	○	◎	○				
韓国・朝鮮文学概論2	講義	2・3・4	2	文学史的な側面から近世から現代に至るまでの代表的作品を紹介し、その作品の背景や特徴などについて考える。近代詩、近代小説、解放期前後の文学、解放後の分断と文学、現代の詩と小説などを対象として扱う。	1. 韓国・朝鮮文学（現代）の流れや特徴、代表的な作品に対する知識を得る。 2. 韓国・朝鮮文学や芸能を通じて、その時代の人々の思考などを考え、人間への広い視野を得る。	○	◎	○				
韓国・朝鮮史1	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮地域の歴史に関する基礎知識を学び、隣国の文化に対する理解を深める。古代から高麗時代までを通史的に講義し、韓国・朝鮮の伝統文化が形成されていく過程を総合的に学習する。	1. 韓国・朝鮮地域の歴史の流れを理解する。 2. 古代から中世にいたる韓国・朝鮮地域の歴史に関する基礎知識を身に付ける。 3. 韓国・朝鮮の伝統文化、特に仏教文化について理解する。	○	◎	○				
韓国・朝鮮史2	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮地域の歴史に関する基礎知識を学び、韓国・朝鮮の文化に対する理解を深める。朝鮮時代から現代までの歴史を概観し、韓国・朝鮮が新たな世界秩序に組み込まれていく過程を総合的に学習する。	1. 韓国・朝鮮地域の歴史の流れを理解する。 2. 中世から近代にいたる韓国・朝鮮地域の歴史に関する基礎知識を身に付ける。 3. 韓国・朝鮮の伝統文化、特に儒教文化について理解する。	○	◎	○				
韓国・朝鮮社会文化論1	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮社会に関する基礎知識を学ぶ。韓国・朝鮮社会を形作っている独自の言葉、風俗、地理、思想、宗教等を概観し、日本をはじめとする他国・他地域との比較を通して、韓国・朝鮮の社会文化を相対化することで理解を深める。	1. 韓国・朝鮮社会の現状を理解するための知識を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮の言葉、風俗、地理、思想、宗教などに関する知識を身に付ける。	○	◎	○				
韓国・朝鮮社会文化論2	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮社会に関する基礎知識を学ぶ。韓国・朝鮮社会を形作っている独自の言葉、風俗、地理、思想、宗教等を概観し、日本をはじめとする他国・他地域との比較を通して、韓国・朝鮮の社会文化を相対化することで理解を深める。	1. 韓国・朝鮮社会の現状を理解するための知識を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮の言葉、風俗、地理、思想、宗教などに関する知識を身に付ける。	○	◎	○				
韓国・朝鮮文化交流史1	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮地域と日本、中国をはじめとする周辺地域との交流の歴史を個別事例に則して学びながら、時に比較史的視点をもって韓国・朝鮮地域を眺めることで日本を相対化する眼を養う。	1. 韓国・朝鮮と日本をはじめとする周辺地域との交流の歴史の流れを理解する。 2. 古代から中世にいたる韓国・朝鮮と日本をはじめとする周辺地域との交流の歴史に関する基礎知識を身に付ける。 3. 日本の歴史文化を相対化して理解する。	○	◎	○				
韓国・朝鮮文化交流史2	講義	2・3・4	2	韓国・朝鮮地域と日本、中国をはじめとする周辺地域との交流の歴史を個別事例に則して学びながら、時に比較史的視点をもって韓国・朝鮮地域を眺めることで日本を相対化する眼を養う。	1. 韓国・朝鮮と日本をはじめとする周辺地域との交流の歴史の流れを理解する。 2. 近世から現代にいたる韓国・朝鮮と日本をはじめとする周辺地域との交流の歴史に関する基礎知識を身に付ける。 3. 日本の歴史文化を相対化して理解する。	○	◎	○				
韓国・朝鮮事情1	講義	3・4	2	韓国・朝鮮の現代事情について講義する。担当教員の専攻分野をベースに、韓国・朝鮮社会の今を、地理・政治・経済・文化・思想・宗教・言語など、様々な側面から学ぶ。中級以上の韓国・朝鮮語能力を持つ学生を対象に、韓国・朝鮮語で講義を行う。	1. 韓国・朝鮮社会の今を理解する上で必要な知識を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮語による講義を理解できる聴解能力を身に付ける。	○	◎	○	◎	◎		
韓国・朝鮮事情2	講義	3・4	2	韓国・朝鮮の現代事情について講義する。担当教員の専攻分野をベースに、韓国・朝鮮社会の今を、地理・政治・経済・文化・思想・宗教・言語など、様々な側面から学ぶ。中級以上の韓国・朝鮮語能力を持つ学生を対象に、韓国・朝鮮語で講義を行う。	1. 韓国・朝鮮社会の今を理解する上で必要な知識を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮語による講義を理解できる聴解能力を身に付ける。	○	◎	○	◎	◎		
韓国・朝鮮語科指導法1	講義	3	2	初級韓国・朝鮮語教育に必要な知識を講義する。学習時間と到達度の問題、テストと評価の問題などを取り上げる。	学習指導案を作成し、初級韓国・朝鮮語の授業ができる	○	○	○	◎	◎	◎	
韓国・朝鮮語科指導法2	講義	3	2	中級韓国・朝鮮語教育に必要な知識を講義する。学習時間と到達度の問題、テストと評価の問題などを取り上げる。	学習指導案を作成し、中級韓国・朝鮮語の授業ができる	○	○	○	◎	◎	◎	
韓国・朝鮮入門	講義	1	2	韓国・朝鮮語を専攻する1年次生対象の必修科目である。日本の高校教育では韓国・朝鮮地域について体系的に学ぶ機会がない。本講義では、韓国・朝鮮の地理、歴史、社会等に関する基礎的事項を学び、韓国・朝鮮の文化を学んでいくうえでベースとなる知識を身に付ける。	1. 韓国・朝鮮の地理、歴史、社会等に関する基礎的な知識を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮の社会や文化を知ることによって、日本の社会・文化を相対化する視点を養う。	○	◎					
韓国・朝鮮語演習1	演習	3	2	本演習は、語学、文学、歴史、社会文化の4つの分野に分けられ、より専門的に各分野を履修し知識を涵養することを目的とする。決められたテーマに関連する資料を読みレポートを作成させる。本演習を通して「卒業課題研究」もしくは「卒業論文」につなげていく。	1. 韓国・朝鮮学を専門的に学ぶための知識と研究方法を身に付ける。 2. 韓国・朝鮮について自らが学んだ成果を発表するプレゼンス能力を身に付ける。	○	◎	◎	○			

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士（韓国・朝鮮語）の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につけている（国際性） ② 韓国・朝鮮のことば、文化、文学、歴史、社会、風俗などに関する情報収集能力と知識を身につけている（知識） ③ 韓国・朝鮮語の運用能力を土台として専門性の高い学問を言語学、文学、歴史、社会文化、言語教育などの領域において探究することができる（韓国・朝鮮語による学問探究） ④ 異文化理解を踏まえた韓国・朝鮮語によるコミュニケーションができる（コミュニケーション力） ⑤ あらゆる分野で韓国・朝鮮語を用いて活躍することができる（仕事で通用する語学力） ⑥ 国際的に通用する高度な韓国・朝鮮語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる（国内外での貢献性）											
	科 目 名	授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎ 達成のために特に重要 ○ 達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
韓国・朝鮮語演習2		演習	3	2	本演習は、「韓国・朝鮮語演習1」の継続である。語学、文学、歴史、社会文化の4つの分野に分けられ、より専門的に各分野を履修し知識を涵養することを目的とする。決められたテーマに関連する資料を読みレポートを作成させる。本演習を通して「卒業課題研究」もしくは「卒業論文」につなげていく。	1.韓国・朝鮮学を専門的に学ぶための知識と研究方法を身に付ける。 2.韓国・朝鮮について自らが学んだ成果を発表するプレゼンス能力を身に付ける。	○	◎	◎	○		
韓国・朝鮮語演習3		演習	4	2	「韓国・朝鮮語演習1、2」の発展である。語学、文学、歴史、社会文化の4つの分野に分けられ、より専門的に各分野を履修し知識を涵養することを目的とする。決められたテーマに関連する資料を読みレポートを作成させる。本演習を通して「卒業課題研究」もしくは「卒業論文」につなげていく。	1.韓国・朝鮮学を専門的に学ぶための知識と研究方法を身に付ける。 2.韓国・朝鮮について自らが学んだ成果を発表するプレゼンス能力を身に付ける。 3.韓国・朝鮮に関する学問的な議論ができるコミュニケーション能力を身に付ける。	○	◎	◎	○		
韓国・朝鮮語演習4		演習	4	2	「韓国・朝鮮語演習1、2、3」の総まとめである。語学、文学、歴史、社会文化の4つの分野に分けられ、より専門的に各分野を履修し知識を涵養することを目的とする。決められたテーマに関連する資料を読みレポートを作成させる。本演習を通して「卒業課題研究」もしくは「卒業論文」につなげていく。	1.韓国・朝鮮学を専門的に学ぶための知識と研究方法を身に付ける。 2.韓国・朝鮮について自らが学んだ成果を発表するプレゼンス能力を身に付ける。 3.韓国・朝鮮に関する学問的な議論ができるコミュニケーション能力を身に付ける。	○	◎	◎	○		
韓国・朝鮮語海外語学実習		実習	2	4	海外学術交流協定校である韓国外国語大学の語学研修機関で行われる韓国・朝鮮語学習のための夏期プログラムを利用して、3週間程度の異文化体験と言語学習を行う。実習の実施に先立ち事前学習を行い、研修中の語学学習の評価、帰国後のレポート等を総合的に判断して成績評価を行う。	1.韓国現地の人々とコミュニケーションがとれる言語運用能力を身に付ける。 2.韓国に存在する文化遺産を訪れ、実見することによって韓国・朝鮮文化に対する深い理解を得る。 3.韓国現地の人々との交流を通して、韓国・朝鮮学を学ぶ意味を考える。	◎	◎		◎	◎	
卒業課題研究			4	2	これまでの学習を通して関心を持った事柄に対してテーマを設定して研究する。「韓国・朝鮮語演習1～4」の科目履修中に各演習科目に関連するテーマを設定させ、指導についてはテーマに応じて担当教員が決定する。担当教員は個別に指導を行い、4年次の12月に研究レポートを提出させる。	1.先行研究に関する文献調査ができる。 2.テーマに関するフィールド調査・アンケート調査ができる。 3.独自の意見を形成できる。 4.意見を論文のルールにしたがって表現できる。	○	◎	◎			
卒業論文			4	4	卒業論文は大学における学びの集大成である。「韓国・朝鮮語演習1～4」の科目履修中に各演習科目に関連するテーマを設定させ、指導についてはテーマに応じて担当教員が決定する。担当教員は個別に指導を行い、4年次の12月に論文を提出させる。	1.先行研究に関する文献調査ができる。 2.テーマに関するフィールド調査・アンケート調査ができる。 3.独自の意見を形成できる。 4.意見を論文のルールにしたがって表現できる。	○	◎	◎			